

A—27 人工肉蛋白の栄養価について(第1報)
—成長法による大豆系人工肉の
栄養価測定—

大妻女大家政 ○坂本 清
福沢 初代

1. 近來植物蛋白加工食品である所謂人工肉商品が増加しているが、これ等の栄養を蛋白食品として評価する必要を認め、他蛋白食品との組合わせ、アミノ酸強化等により栄養価向上を計って行く目的で始められた。

2. 今回は成長法のみに限った。即ち 40g 前後の同腹シロネズミ 7 群、各 5 匹を用い、無蛋白食群、3, 5, 10, 18, 23, 30, 40% カゼイン及び人工肉蛋白含有飼料群をつくり、10日間及び4週間自由食飼育し、成長曲線、NGI、

NPR, PER の算出, 更に体長, 臓器測量を行った。

3. i) 4週間飼育で, 人工肉食群はカゼイン食群に10%蛋白含有飼料で約50g体重が低かったが, 18%, 特に23%以上では人工肉食群が僅かに劣るか, 又は同様であった。

ii) NGI 曲線は人工肉食群, カゼイン食群でそれぞれ40%, 23%蛋白含有飼料に極大点が見られた。

iii) NPR は人工肉食群で2.8~3.2, カゼイン食群で3.6~4.8であった。

iv) PER は10%蛋白飼料で人工肉食群1.54, カゼイン食群で2.59で, 最大値は人工肉10%群で1.77, カゼイン10%群で2.71であった。

v) 人工肉群, カゼイン食群間で肝重量/体重は差は少ないが, 人工肉群で腸の長さ/体重値が大であることが目立った。